

染用白布4枚を巻く。錘400gで円筒内の汚染布を20分間(5分毎に反転)摩擦する。4)洗浄法:ポリオキシエチレンニルフェノールエーテル,ソフト型アルキルベンゼンスルホン酸ソーダを使用し常法により洗浄する。

3. 1)空中浮遊塵埃90に対し,カーボンブラック1,硬化牛脂9の割合で配合した汚染布の洗浄性が天然汚染布に近似している。2)洗浄効率は摩擦前の汚染布は,水洗浄で45%,洗剤で60%以上を示し,洗剤間の差は少い。摩擦後は水洗浄で25%以下,洗剤では40%前後で洗剤間の差が大きくなる。

B-21 人工汚染布の試作(その1)

広島女大家政 水野上与志子
村上温子
サンスター齒磨(株) ○池田典子

1. 天然汚染布と標準人工汚染布の汚染性の相違は,無機物質の有無,汚染時の湿気,摩擦作用等による要因が考えられる。天然汚染布と汚染性・洗浄性を同一視できるような人工汚染布を作成するため,上記三点を考慮して,人工汚染布を試作した。

2. 1)汚れ成分:無機質汚垢として空中浮遊塵埃(駅構内の集塵自動車より回収)玉川C級カーボン,硬化牛脂,流動パラフィン 2)汚染方法:綿研式乾式汚染器による。ガラス粒800gに0.2mlの流動パラフィンを均一に付着させた後,前記混合汚れ0.3gを均一に付着させる。汚染器に布を取り付け,20分間汚染する(5分毎に反転) 3)摩擦方法:試作の摩擦用器具を乾式汚染器に付設する。円筒の弧にそった摩擦部分(ベークライトの土台の上にポリウレタンスポンジを巻き,その上に汚